

年代	～1972年 (S47年)	1973年 (S48年)	1974年 (S49年)	1975年 (S50年)	1976年 (S51年)	1977年 (S52年)	1978年 (S53年)	1979年 (S54年)	1980年 (S55年)
----	---------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

学界・業界全体状況	1963年 京都大学坂井研究室 機械翻訳稼働(甲22)、相沢輝昭氏、坂井研究室で「カナ文の解析法」の研究 1965年 九州大学栗原俊彦教授「カナ漢字変換」研究開始宣言 1969年 情報処理学会誌「漢字情報処理特集号」	NHK相沢氏ら「計算機によるカナ漢字変換」(乙2)  NHKかな漢字変換の最終論文			9月 東大工学部渡辺茂教授、タッチタイプが可能な日本語入力装置は「できる道理がない」と宣言。(甲4)	「第2段階・・・1976年(昭和51年)4月ころ～1977年(昭和52年)3月」  「第3段階・・・1977年(昭和52年)11月ころ～1978年(昭和53年)9月」 被告準備書面(1)	9月 JW-10報道発表  10月データショー出展	2月JW-10出荷 5月沖電気工業株式会社 Lettermate80(全文字配列タブレット方式) 9月シャープ株式会社 WD-300(全文字配列タブレット方式)(甲4)	5月 富士通株式会社 OASYS 100(単語単位表示選択式) 日本電気株式会社 NWP-20(全文字配列タブレット方式)(甲4)
-----------	--	---	--	--	--	--	---------------------------------	--	--

原告は一貫して自然言語処理関係の研究に携わる

原告	1971年4月 京大大学院で人工知能の権威坂井利之教授に師事。長尾真助教授、杉田繁治助教授らの薫陶を受ける。両助教授は共に自然言語処理の専門家。(甲22)	4月 被告に入社。 10月 自然言語処理の道具として、TOSBAC-40用ミニOS開発に着手	8月 社内技術報告「T-40用ミニOSの試作」	10月頃 大型計算機によるカナ漢字変換シミュレーションを原告のエディタを用いてデモ。 12月 社内技術報告「漢字処理及び言語処理のためのミニコンシステム --TOSPICS-L」	11月 社内技術報告「カナ漢字変換システム(第2報)ミニコン上の本格版。本件特許1「短期学習(暫定辞書使用)」の発明が記載されている。(乙15)	4月 社内技術報告「ミニコンによる即時処理型カナ漢字変換システム」の中で「ワードプロセッサ」宣言。(乙16) 8月 「カナ漢字変換機能を備えたワードプロセッサ」電子通信学会情報部門全国大会。「ワードプロセッサ」コンセプト初出(甲4) 11月 本件特許1「同音語選択装置(短期学習)」を出願(甲1) 青梅工場でJW-10開発を始める。	4月 社内技術報告「日本語ワード・プロセッサの開発」即時処理型の改良版(乙17) 9月 本件特許2出願「カナ漢字変換装置」(局所意味分析を備えた複合分析型かな漢字変換) 10月JW-10、データショーに出展。原告が説明者として登壇。	9月 社内技術報告「局所意味分析法」。(甲52) 本件特許2出願が記載されている。	3月 「かな漢字変換における局所意味分析」電子通信学会総合全国大会。(甲4)  社内技術報告「日本語文書エディタの研究と開発 --日本語WP JW-10 --」
----	---	---	-------------------------	--	--	--	--	---	--

原告によるワードプロセッサ開発の最盛期

森氏	1971年「文字検索装置」特許(乙8)  ワープロには無関係	「ワープロが日本語を覚えた日」15頁 「公式の研究というのは、あいかわらず文字認識の研究、音声認識の研究、図形認識の研究です。その当時通産省の大型プロジェクトでパターン情報処理の研究・開発というものがあまして、その中心になってやっていたから・・・」  パターン情報処理大型プロジェクト；1971-1980	7月「パターン情報処理システム」研究成果発表講演会「濃淡図形認識の研究開発」  ワープロには無関係
----	--------------------------------------	---	---

森さんは一切口を出さずに、『どうなっている』とも聞かずにほっておいてくれました。(河田氏ブログ)

森氏は管理のみ

河田氏	1971年 九州大学の、電気回路等を専門とする研究室を修了。  12月 「漢字認識のための漢字大分類の一手法 四辺コード化法」情報処理学会第14回大会	「濃淡図形量子化の一手法」(電子通信学会研究会PRL74-41)に文字認識、バーコードへの応用が述べられている。(27頁)	10月頃 河田氏が3か月で開発した大型計算機によるカナ漢字変換シミュレーションを原告のエディタを用いてデモ。 12月 大型計算機によるシミュレーション報告。河田氏の最初で最後のJW-10関係技術報告。  河田氏の技術的関与は3か月で終了	8月 「漢字認識の後処理としての文脈情報処理」電子通信学会情報部門全国大会。(甲32)
-----	---	---	---	---

河田氏の専門は画像、文字の処理

ワードプロセッサ開発には無関係

武田氏	10月 チームに加わる。固有名詞処理開発担当。  11月 青梅工場でJW-10開発を始める。ファイルシステムなどユーティリティ担当
-----	---

武田氏は一貫して補助的役割

# 日本語ワードプロセッサ 個人活動年表